

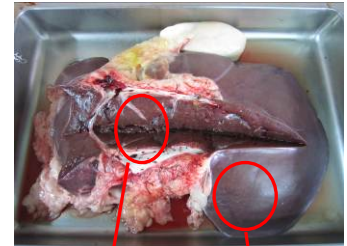
と畜検査について (牛の内臓検査・赤物編)

【赤物検査】

肝臓(レバー)、心臓(ハツ)等を検査します。

牛1頭の肝臓は約6kgあります。肝臓は代謝や解毒作用などの様々な機能を担う重要な器官であり、再生力が強く、ある程度の損傷があっても機能に異常をきたすことは滅多にないため、検査で様々な病気が見つかることがあります。

肝臓で発見される特徴的な病気としては以前紹介した「黄疸肝」、「肝膿瘍」の他に「鋸屑肝」等があります。鋸屑肝は肝臓の壊死が巣状におこりオガクズを散らしたようにみえることからこの名前がついています。



鋸屑肝

一見何もないように見えますが、拡大すると



出血性の黒斑を伴った鋸屑肝

↓ 黄疸

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000087/87297/ushi_No2.pdf

↓ 肝膿瘍

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000079/79591/kensa.pdf>

心臓は内面を検査するため切開します。心臓で発見される主な病気として「**疣贅（ゆうぜい）性心内膜炎**」があります。疣贅性心内膜炎は通称、「イボ」と呼ばれていて、主に細菌感染が原因で心内膜にカリフラワー状またはポリーフ状の塊ができます。

「疣贅性心内膜炎」が発見された個体は全身に菌がまわり炎症を起こす「**敗血症**」である可能性が高く、内臓や枝肉全部が廃棄になることが多い病気です。



心臓の検査

(一頭ずつ切開して確認します)

↓ **疣贅性心内膜炎**

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000089/89799/ushi_No3.pdf